

南風原町指定

文化財

Haebaru Town Designated Cultural Properties

南風原町の歴史を尊び、後世に残していきたい文化財

南風原町には歴史的に価値の高い、かけがえのない共有財産である有形・無形文化財、史跡、天然記念物が数多く残されています。町ではこれらを大切に守り育て、文化の香り高いまちづくりを進めています。

Respect for the History of Haebaru Town, Cultural Properties to Pass on to Future Generations

In Haebaru Town, there are many tangible and intangible cultural properties, historical sites and natural monuments that are community treasures of great historical value. We carefully protect and foster these as we endeavor to create a town with a rich historical flavor.



1 大名ヒージャーガーと石碑【大名】 史跡

首里に向かう旧街道道路脇のヒージャーガーピラと呼ばれる坂道にある共同井戸。碑文によると、この道路は雨天時に往来で渋滞するので1769年にこれを改修し、樋川を築かせたそうです。井戸の口は直径1メートルの楕円形をしており、井戸の横には漢文で由来を記した石碑があります。王府時代に久高島や斎場御嶽に向かうの王妃一行が休息のために立ち寄った場所とされ、この水のおいしさを褒めたたえ記念の碑を建てたという伝承もあります。



2 御宿井【宮城】 史跡

琉球石灰岩でできた井戸で、羽衣伝説が言い伝えられ、琉球国由来記(りゅうきゅうこくゆらいき)(1713年)と球陽(きゅうよう)外巻の遺老説伝(いうらせつでん)(1745年)に記されています。以前は生活用水として使用されていましたが、現在でも年中行事の際の拝所(うがんじゅ)として大事に守り継がれ住民の生活に密着しています。周辺からはグスク時代のフェンサ上層土器や青磁、類須恵器が出土し、歴史的価値が高く評価される文化財です。



4 中毛小のガジュマル群【喜屋武】 天然記念物

喜屋武にある中毛小には、ガジュマルの老木が並び、互いの根が網の目状にからみつき、悠々と大地にそびえたっています。樹皮には凸凹があり、コケ類が着生するなど古木の風格が漂っています。町内には大木のガジュマルが群がって生育しているのは珍しく、残念ながら倒れてしまった木もありますが、喜屋武のシンボルのような存在で今なお誇らしく区民を見守っているようです。



6 印部土手石【兼城】 有形文化財

印部土手石は、首里王府の時代から明治にかけて、田畑を測量する基準点として設定され、各間切に約300個あったといわれています。現在沖縄では100個余り発見されており、南風原町内からは松川原、川田原、け原(2点)の4個発見されています。首里王府時代の農業政策について知る手がかりになる貴重な文化遺産のひとつです。



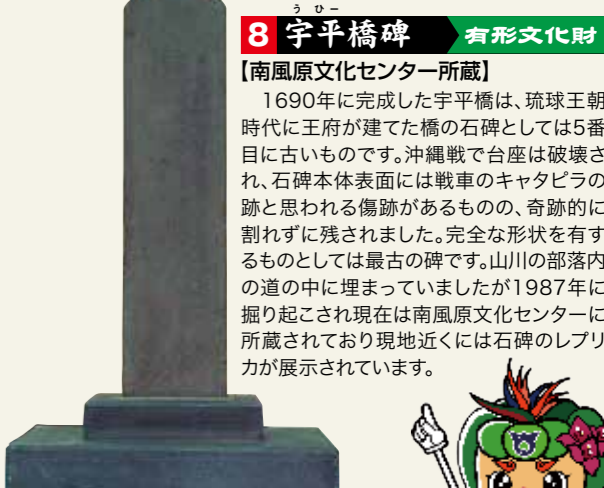
7 修宮城橋碑【宮城】 有形文化財

与那原から首里・識名方向に向かう県道40号線、国場川上流にかかる宮城橋の近くに建っていた石碑。この道は現在でも与那原、佐敷、玉城などから首里に上る幹線道路になっており、かつて交通の要路として重要視された南風原を裏付ける貴重な文化財です。 ※南風原文化センター所蔵



5 沖縄陸軍病院南風原壕群【喜屋武】 史跡

町内を見渡す小高い丘にある黄金森(こがねもり)。ここには、かつて第二次世界大戦時、日本軍が沖縄戦に備え構築した沖縄陸軍病院南風原壕群があります。院長以下、軍医、看護婦、衛生兵、ひめゆり学徒らがここで傷病兵らの治療にあたりました。南風原町は1990年、戦争の悲惨さを伝える証として、第一外科壕群・第二外科壕群を戦跡としては全国でも初めて文化財として指定しました。



8 宇平橋碑【南風原文化センター所蔵】 有形文化財

1690年に完成した宇平橋は、琉球王朝時代に王府が建てた橋の石碑としては5番目に古いものです。沖縄戦で台座は破壊され、石碑本体表面には戦車のキャタピラの跡と思われる傷跡があるものの、奇跡的に割れずに残されました。完全な形状を有するものとしては最古の碑です。山川の部落内の道の中に埋まっていたが1987年に掘り起こされ現在は南風原文化センターに所蔵されており現地近くには石碑のレプリカが展示されています。



3 石獅子【兼城・本部・照屋A・照屋B】 有形文化財

石獅子はそれぞれの集落にとって恐れや災いをもたらす場所に向けられており、集落を災いから守るフーチゲシ(邪気返し・魔除け)のために作られました。町内には4基が残されており、本部、兼城にそれぞれ1基、照屋に2基現存しています。フーチゲシのほかに火事を引き越すと信じられてきた山への返しヒーゲシ(火返し)の役目も果たしています。



9 南風原間切番所跡のフクギ群【宮平】 天然記念物

1611年頃、琉球王府の尚寧王(しょうねいおう)が各間切りに番所(役場)を設置し、南風原間切番所もその時に設置されました。現在番所跡には道路に沿って7本のフクギの老木が残っており、町内では珍しい存在です。このフクギ群は樹高が約9m前後あり、胸高直径は71cmが最大です。正確な樹齢は不明ですが、上杉県令の「沖縄県巡回日誌」(1881年)ではすでに「老木のフクギ」と記述されていることから樹齢はかなり古いものと思われます。



県指定文化財

摩文仁家の墓【大名】

摩文仁家は第二尚氏尚賢王の第二子尚弘毅(大里朝亮)を大宗とする家系で、その墓は南風原町の大名にあります。朝亮は尚貞王の時代に摂政を務め、その功績を認められ墓を拝領したとされています。丘の中腹を掘って墓は造られており、口は観音聞きで、墓室内には6本の石柱が立ち、住居のような珍しい造りです。南風原町唯一の県指定文化財です。

歴史的文化財

高倉【津嘉山】

200年以上の歴史をもつ貯蔵庫。沖縄戦の激しい戦火もくぐりぬけてきました。現在も、屋根の支え木に砲弾跡が。戦前の屋根は茅葺だったそうです。上にはお米などの穀物が、下には、牛やヤギなどの家畜を飼育していたそうです。この歴史ある高倉、現在も管理する與座家の倉庫として使われています。歴史の語り部でありながら現役という貴重な存在です。